関市農業委員会総会議事録

場所：関市役所 6階6-6、6-7会議室

○議事日程

令和3年7月6日（火曜日）午前10時00分 開議

- (1) 議案第1号 農地法第3条の規定による許可申請について
 - (2) 議案第2号 農地法第4条の規定による許可申請に対する意見について
 - (3) 議案第3号 農地法第5条の規定による許可申請に対する意見について
 - (4) 議案第4号 事業計画変更申請に対する意見について
 - (5) 議案第5号 農用地利用集積計画の承認について
 - (6) 議案第6号 農地の買受適格証明に対する意見について
-
- (1) 報告第1号 農地法第18条第6項の規定による届出について

○出席委員（19名）

1番 安田 美雄 君	2番 臼田 正嗣 君	3番 山田 彰 君
4番 井上 正隆 君	5番 野田 卓志 君	6番 伊藤 均 君
7番 吉田 和子 君	8番 玉田 和久 君	9番 山田 タツエ君
10番 八代 治郎 君	11番 足立 昌人 君	12番 青山 雅紀 君
13番 永田 千春 君	14番 西田 耕三 君	15番 西部 徹 君
16番 長尾 始 君	17番 野村 茂 君	18番 日置 香 君
19番 田下 喜代 君		

○委員以外の出席者

産業経済部長	武藤 好人 君	農業委員会事務局長	山岡 透 君
農業委員会事務局課長補佐	小石 隆之 君	農業委員会事務局課長補佐	長谷部 香織 君
農業委員会事務局係長	小森 康司 君	洞戸事務所主任主査	李 浩基 君

午前10時00分 開会

○事務局課長補佐（小石隆之君）これより農業委員会を始めさせていただきます。それでは野村会長よりご挨拶をお願いいたします。

○議長（野村茂君）みなさんおはようございます。梅雨に入りまして穏やかな梅雨だなと思っておりましたが、梅雨の時期の災害ということで、熱海での災害では64名の方の安否がわからないと報道されておりますが、実際はそれ以上という報道もあります。1年前には、熊本でも大きな災害があり、そのことをコロナのことで忘れかけていることに危機感が無いのかなと思っておりますが、これから梅雨の末期を迎えますので、皆様方にはお気を付けていただきたいと思います。また、事務局から案内はされますが、農地利用状況調査を毎年行っております。農林水産省から通知があったということで、調査が少し変わってきます。その説明をするために、今回合同会議を予定しておりましたが、その状況下で通知があったため、県農業会議から農業委員会事務局に説明があり、その後事務局から農業委員さんと農地利用最適化推進委員さんに説明をするということで、本日の合同会議は急遽中止といたしまして、来月の農業委員会と併せて合同会議を開催するということになりましたので、お断りをいたします。利用状況調査の変更については、今月2日の農業新聞の3面に載っているのので、一度内容を確認していただいて、合同会議の参考にしていただくのがよろしいかなと思います。それでは本日の議案につきまして、ご審議を賜りますようよろしくお願いいたします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）ありがとうございました。続きまして、産業経済部長の武藤がご挨拶を申し上げます。

○産業経済部長（武藤好人君）みなさんおはようございます。いつも大変お世話になり、ありがとうございます。昨年度、人・農地プランの策定ということで、皆様方にご尽力いただきまして誠にありがとうございました。このコロナ禍の状況でなければ、地域の農家の方に集まっていたいで広く周知をするということでございましたけれど、コロナ禍の状況の中で、そういった会議もできなかったということで、農家の方々にきちんと周知ができていないという状況にあるのかなと思っております。今、農林課ではきちんと農家の方に知っていただく必要があるということで、ダイジェスト版みたいなものを作って、農家の方にお配りをして、ご理解いただきたいように考えています。人・農地プランの中で中心的な事業となってくるのが、農地中間管理事業です。すべてではないですが、やはりこれが大きな役割を果たしていくのではないのかなと思っておりまして、地域によっては地域でこの事業に取り組もうかというお話もあったり、個人で興味を持たれたりとかいろんな所があると聞いております。しかし、農地は大事な資産でありますので、この中間管理事業をどんなことなのか疑問を持っておられる方も多く聞いておりますので、そういった課題をJAめぐみのさんにご相談させていただき、連携してお困りの方に理解してもらうよう、Q&Aを作ったり相談日をもうけたり、どういう風にするかは今後相談しながら考えていきますけど、分かりやすくしていきたいと考えておりますので、その時には、またいろんな形でご尽力賜りたいと思っております。あと一点、関市のコロナのワクチン接種の状況をご報告させていただきたいと思います。岐阜県知事と首長がオンラインで情報共有するということと、岐阜県の方針を各市町村に下ろすことを定期的に行っておりまして、直近なのは7月3日に開催された時の資料に載っていたもので、7月1日現在で高齢者接種率の全国平均は63.1%、岐阜県は77.72%で全国1位の数字です。元々国からは7月末までに希望される高齢者の全ての方の接種を終了するというようにということで、医療関係の方にご協力いただいで進めておりますが、岐阜県におきましては、全体的には非常に良い数字になっております。関市はどうかと言いますと、90.2%。これは希望者の数字ではなくて、65歳以上の方で1回目の接種が終わった方で、希望されていない方も含まれていますので、今現在で90.2%は本当に高い数字だと思っております。関市の場合は、個別接種と集団接種この両方を合わせると週6,000回の接種が可能な体制をとっております。ただ、残念なことに今日の新聞にも出ていますように思ったほどワクチンの供給量が各市町村回ってきていない状況で、ワクチン接種には市町村が行うものと、県が大規模接種会場を行うものと、企業が職域接種を行うものがありまして、一気にやりたいと言って手を挙げたことと、ワクチンが入ってこないということがありまして、各市町村これからは見通せていない状況です。先ほど言った大規模接種会場については、中濃圏域では可児市の岐阜医療科学大学で7月中旬から受けるようにということで、県が準備していると聞いて

ております。大規模接種会場ではだいたい1日1,000回打てる体制を整えるということになっておりますが、全てはワクチンの供給がどこまでできるかということにかかっているのではないかと考えております。そして、接種券については60歳未満の方は7月3日から順次送り始めております。これは、一度に送ってしまうと予約の関係で混乱してしまいますので、20代、30代、40代、50代それぞれ割り振りを行って、接種券を送っていくということを始めています。これもワクチンの供給量に合わせて行っていくという体制でいるのが関市の状況でして、ご報告させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）本日の総会でございますが、農業委員さん全員ご出席ですのでご報告をさせていただきます。

○議長（野村茂君）ただ今から、関市農業委員会総会を開催します。会議規則第8条の規定により、委員のみなさん全員がご出席ですので、総会は成立しています。次に、議事録署名委員の指名を行います。7番吉田委員さん、8番玉田委員のおふたりにお願ひします。

これより、議案の審議に入ります。議案第1号 農地法第3条の規定による許可申請についてを議題とします。第1号の5番につきましては八代委員さんの申請で出ておりますので5番を先に審議させていただきます。その後残りの案件を審議させていただくという2回に分けて審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは八代委員さん一時ご退席をお願いいたします。

（八代委員退席）

それでは、議案第1号農地法第3条の規定による許可申請の5番の案件について事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）議案第1号 農地法第3条の規定による許可申請について。農地法第3条の規定により、下記農地の申請がありましたので、審議を求めます。はじめに、5番の案件、1件の審議をお願いします。議案2ページです。

5番の案件 位置図は、5ページになります。申請地は、下有知保育園の南470mほどに位置する農振農用地区域外の田、4,147㎡。申請の目的は、使用貸借権の設定です。使用借人は、農業経営拡大のため、借り受けるというもの。使用貸人は、高齢で農地の維持管理ができないため、貸すというものです。6月11日の現地確認をした結果、農地性有り確認しています。以上、使用貸借件設定に関するもの1件につきまして、ご審議をお願いします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。質疑をいただく前にご意見をいただきたいと思ひます。山田委員さん、ただ今の案件の農業経営に関するご意見がありましたらお願いします。

○9番（山田タツエ君）現地確認してきましたけど、農地には稲穂があり、管理されておりました。

○議長（野村茂君）ありがとうございます。それでは、補足説明のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ないようですので、議案第1号の5番について、質疑のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので、議案第1号の5番について、原案のとおり許可することに異議のない方は挙手をお願いします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）はい、ありがとうございます。全員の挙手をいただきました。議案第1号の5番1件を許可することといたします。それでは、八代委員さんに着席してもらってください。

（八代委員着席）

○議長（野村茂君）それでは、議案第1号の1番から4番、6番から8番までの案件についての事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。続きまして、5番以外の案件について、審議をお願いします。議案1ページからになります。

1番の案件 位置図は、1ページになります。申請地は、関高等学校の東380mほどに位置する農振農用地区域外の登記地目田、現況地目畑、1,058㎡の内120.22㎡。申請の目的は、

所有権移転です。譲受人は、農業の規模拡大のため申請地を譲り受けるというもの。譲渡人は、体調に不安があり、農地として維持管理ができないことから、譲り渡すというものです。

2番の案件 位置図は、2ページになります。申請地は、大杉公民館の南東330mほどに位置する農振農用地区域内の畑、417㎡。申請の目的は、所有権移転です。譲受人は、申請地を農業経営の拡大をするというもの。譲渡人は、住所が遠方であり、耕作することが困難であるため譲り渡すというものです。

3番の案件 位置図は、3ページになります。申請地は、志津野転作促進技術研修センターの北530mほどに位置する農振農用地区域内の田、1,749㎡。申請の目的は、所有権移転です。譲受人は、各務原市で農林産物販売所を営んでおり、申請地でシイタケを栽培、販売したいというもの。譲渡人は、市外に住んでおり、申請地を管理することが難しいため譲り渡すというものです。

4番の案件 議案は2ページ、位置図は、4ページになります。申請地は、倉知小学校の南170mほどに位置する農振農用地区域外の畑、363㎡。申請の目的は、所有権移転です。譲受人は、農業経営拡大のため譲り受けるというもの。譲渡人は、高齢で、農地の維持管理ができないため譲り渡すというものです。

6番の案件 位置図は、6ページになります。申請地は、長良川鉄道関市役所前駅の南西330mほどに位置する農振農用地区域外の登記地目宅地、現況地目畑、387.7㎡。申請の目的は、前総会において、3条買い受け適格証明を受け競売による落札したための所有権移転です。申請者は、農業規模拡大のため取得するものです。

7番の案件 議案は3ページ、位置図は、7ページになります。申請地は、関市農村婦人の家の北470mほどに位置する農振農用地区域内の田3筆、2,882㎡、農振農用地区域外の田2筆498㎡、合計5筆、3,380㎡。申請の目的は、所有権移転です。譲受人は、現在、土木解体業を営んでおり以前から興味のある就農に挑戦したいと考え、新規就農をしたいというもの。譲渡人は、高齢になり、農地の管理ができないため譲り渡すというものです。3条8番と同時許可案件です。

8番の案件 議案は3ページから4ページ、位置図は、8ページになります。申請地は、金竜小学校の北西330mほどに位置する農振農用地区域内の田5筆、2,653㎡。申請の目的は、所有権移転です。譲受人は、現在、土木解体業を営んでおり、以前から興味のある就農に挑戦したいと考え、新規就農をしたいというもの。譲渡人は、高齢になり、農地の管理ができないため譲り渡すというものです。3条7番と同時許可案件です。

すべての案件について、6月11日に現地を確認した結果、農地性ありと確認しています。以上、所有権移転に関するもの8件につきまして、ご審議をお願いいたします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。補足説明をいただく前に、安田委員さん、臼田委員さん、山田彰委員さん、玉田委員さん、山田タツエ委員さん、八代委員さん、青山委員さん、永田委員さんに譲受人の農業経営に対するご意見があればお伺いいたします。

（挙手あり）

○議長（野村茂君）青山委員さん。

○12番（青山雅紀君）7番の案件ですが、地図では7ページ。現場確認をしたところ、現在は田畑に使用されていない。この地域はため池で農業を営んでおられるということですが、休耕田になっておられて、数年以上経っておられると思われまます。しかも、木が田んぼのど真ん中に立っており、農地として可能かどうかということは不安視される地域でございます。それと、申請者が新規就農ということで、先ほど説明がございましたように建設的な解体業ということで、昨今災害等発生している状況からみると、いろんな不安視されるという状況でございます。地元の方にもちょっとお聞きしましたら、農業ができるんかい、本当に。ということがございました。これは意見でございますが、本人がやる気ということで重機等を買ってやりますと言われれば、可能かということですが、それとあわせて、適格の5反のために8番の案件と合わせて所有者が意図的に5反以上の面積を確保して、できる農地は可能かもしれませんが、洞の一番奥でしかもため池の付近というのは、誰も作らないというのが現状ですので、将来的には不安視しており、建設残土とかを埋められるのではないかなという個人的な意見かも知れませんが、そういったことがありますので、ちょっと不安を感じましたので、意見として申し添えます。以上です。

○議長（野村茂君）はい、ありがとうございます。只今、青山委員さんから、7番の案件についてご意見をいただきました。農業をされる状況であるかどうかということに少し異議があるということですが、何かまたご意見があればお願いしたいのですがどうでしょうか。

（挙手あり）

○議長（野村茂君）はい。

○12番（青山雅紀君）すみません、もう一点ですが、先週の土曜日だったと思いますが、申請業者の方からこの地域中の一部分を5条申請したいということで、今地元調整しています。大日洞の奥の部分について5条申請をやっておりますと、計画変更させていただきますというような話も出ておりますし、一度よく聞いて印鑑を押さないかなというふうに考えておることだけ、申し添えておきます。

○議長（野村茂君）そうすると、この申請が出された後に5条申請が出されるということですか。

○12番（青山雅紀君）電話でだけなんですけど、今日2時ごろ来るとか、明日来るとかそのような状況です。土木水利委員さんには、ちょっと意見を聞いていない。法的にやられる手続きですので、だめだということとはなかなか言えんわね。いう話し合いはしておる状況です。

（挙手あり）

○議長（野村茂君）はい。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。今、青山委員が言われたように、実はこれ3条申請というところで、5条申請が出されるいわゆる山裾の木が生えて農地性がないような所も現実的には3条で農地として取得をしたいということで、3条申請が上がってきておったんです。ただし、職員が現場を必ず見に行くので、2人で確認をしに行った結果、明らかに農地性がないと。そんなところをどうやって3条で買うんやということで、書士には強めの意見を言いまして、その部分については外しなさい。3条では認めないということで、取り下げさせて一部修正を加えた上で今回の申請に至ったということになります。ただし、この場所につきましては、取り下げさせたところよりは保全管理すればいいようなところで、作物ができるかどうかというのは言われるとおりの土地なんですけど、本人が初めて出される方については営農計画書というものを提出させて、その書類を見て、本人がやると言われている以上、こちらやるのだろうということで、書類を作成させておりますが、この総会で判断できないようであれば、もう一度事務局長等と現場を確認させていただいて、その辺の状況を確認させていただくということと、書士には総会でそういった意見があがっておるということで、再度こちらの方に説明に来させた上で来月以降の審議をもう一回ということもかまいませんので、他の委員さんのご意見をお伺いして、審議していただければいいかなと思います。

○議長（野村茂君）はい。今、事務局から説明がありましたように、申請者が新規就農者で農地を取得されようとしているんですけど、その農地が営農できる農地でないところであるということが、現場でみられるということではありますが、それに対しては、事務局から補足説明をいただきましたが、この案件について何かご意見はございませんでしょうか。

（挙手あり）

○議長（野村茂君）はい。

○5番（野田卓志君）すみません、私農業やってないものですからうろ覚えのところもあるんですけど、この辺りは新規就農しようと思うと5反いるという認識なんですけど、この2つの案件だけでは5反に満たないんですかね。調べて計算したら。

○事務局課長補佐（小石隆之君）8番の案件の白金が2,600㎡くらいですね。860㎡が次のページにあるので、下限の5反は一応クリアはしております。ただし、8番の案件は平地のようなところで、広見の奥のところについては周りの状況を考えるといかがなものかというのが、青山委員の意見だと思います。

○5番（野田卓志君）新規でやられるということなので、自己資金で購入するというように書かれているんですけどこの辺の調査というのは通常どおりできてきているのでしょうか。例えば、残高証明とか。

○事務局課長補佐（小石隆之君）3条の場合はそこまでは取ってないです。転用させる場合は、家を建てると言っているのに、ローンなど借りられないとか自己資金がないと絶対許可は下りません

が、3条はそこまでは事務局の方も営農計画書を見てというだけでは信憑性もないものですから、そういったところも含めて本当に買ってやるということについて、今回の総会が終わった後、書士にそういった意見が出たということで、必要書類として取り寄せることは可能だと思います。

○5番(野田卓志君)逆に営農が困難といった場合にそれでも本人がやると言ったら、それをどうするのかといった方法論、人に習うとか聞いてやるとかいったことを示すまで通さないということは会議上あり得ることなんですか。

○事務局課長補佐(小石隆之君)保留ということは、過去の関市の議事録等を見てもあるので、問題はないと思いますし、以前別の案件で農業会議に、複雑な状況があった時に他の委員会の総会において保留ということはあるのかと確認したら、そういった委員会もあるということで、即座に出したからと言って、この会議ですべての許可不許可を決めることまでは制限がない。許可保留で再度審査し直し、必要書類を揃えたうえでもう一回来月以降にあげるということは可能だと思います。

○5番(野田卓志君)それをする場合には、何を示してくださいということをこの場で決めなくてはならないのですか。

○事務局課長補佐(小石隆之君)ある程度の意見を言っていたかないと、また来月も同じような状況では、時間的に伸びてしまうだけなので、そういったお話を頂けると事務局としても動きやすいし、書士にも言いやすいです。

○5番(野田卓志君)ありがとうございます。

○議長(野村茂君)他にございませんか。

○1番(安田美雄君)その件に関しまして思ったのですが、営農計画書を読んでおりましたも水稲を主にやるということですが、個人的な調査、例えば職業は何をやっておられるだとか、年齢とか、そういったことが関連するんじゃないかと思うんです。例えば、高齢の方であればこれだけのことをやって将来的に営農計画本当にできるのかとか思ってしまいますし、さらに職業ですね、職業によってはこれだけの農地を管理するのは困難なように思いますので、それらの個人的なこともある程度調べるというようなことも営農計画の中に盛り込むというようなことはできないのでしょうか。

○事務局課長補佐(小石隆之君)はい。営農計画書につきましては、関市は決まった様式はないです。書士が作成し、提出されていますので、割とあっさりしている内容の部分もございますので、今言われたような項目についてもっと詳細に作成させて提出させるというようなことは当然できますし、審議していただく際にこの営農計画書の内容では判断しがたいというのであれば、事務局の方で再度提出をさせて総会時に意見を述べさせていただくというのは可能だと思います。

○1番(安田美雄君)ちなみにこの方現在職業はなんですか。

○事務局課長補佐(小石隆之君)職業は、先ほど青山委員が言われたんですが、土木解体業なんです。場所が洞の割と奥ということと、疑うわけではないけど、職業がそういった職業なので、農地をしっかり管理できるかというところに異議があるというご意見であったと思います。年齢は74歳。高齢なんです。また、書類上のお話もございまして、今回総会に意見を言われたということでございます。

(挙手あり)

○議長(野村茂君)はい。

○8番(玉田和久君)青山委員が言われたように、事業者が5条申請にするかどうか迷っておられますので、そういったあやふやなところもあると思いますので、取り下げいただくか、保留にするかというところを決めた方がよろしいかと思いますが。

○議長(野村茂君)只今、玉田委員さんから取り下げにするか、保留にするかというご意見が出ました。野田委員さんよろしいですか。下限面積の方は、7番と8番関係してきますので。

○5番(野田卓志君)はい、大丈夫です。

○18番(日置香君)付け加えてですが、営農計画書ですけど、許可するにあたって農業委員会としては不安があるわけですから、それをやろうとする事業者がどれだけの意思があるのか、例えばどのような勉強をしているだとか、農業の指導を誰かに受けているだとか、地元の人とコンタクトを取って意欲を見せているとかいうことが必要だと思います。それを加えていただければ、許可しない限り、この計画書ではコンバインやトラクターとか何も買うことがないので、許可がない限り実

行はできないので、本当か嘘か分かりませんよね。だから、非常に難しいケースだと思うんですけど。

(挙手あり)

○議長(野村茂君) はい。

○11番(足立昌人君) 最初に聞いたときに一番上にはため池と聞いたんですけど、これを農地に変えられるという具体的な方法を添付してもらおうということではできませんか。例えば、完全に排水をして、農地にふさわしい土を入れ替えるだとか。農業経営の基礎となる農地の基盤整備をどうされるのかという計画書を出してもらって、必ずそのようにしてもらおう。我々が一番心配している残土だとか、災害が起こった時に将来原因となるようなことが無いような正しいものを作ってもらう。計画を出してもらって、現実で写真を撮って、提出していただくとか、そういう記録をとっていただくことまでをやってもらって、将来はこのようにやりますのでというようなものを付けてもらうことはできないのですか。農業委員会ではこのような判断をしましたけど、将来あの時の判断は何だったんだと言われた時に、僕らの立場としてどうやって申し開きをするかということなんですけど、やったことを残してもらおうような証拠みたいなものを付け加えて書類にしてもらって、それを監視してもらってことまでやってもらってはどうですかね。現在農地である部分は農地で使ってもらえばいいんですけど、さっき言われたように、ちょうど洞のてっぺんで、一般人は誰も入ってこれないようなところで、残土とかいろんなものが捨てられて下にいる人たちはすごい心配をしているというような現実はいっぱいあるので、関市の中でも。そういうことの教訓を全然生かしてない。今の意見ではまずいと思うので、その辺も考えてもらえませんか。

○議長(野村茂君) はい、足立委員さんから頂きましたご意見と安田委員さんからのご意見で同じところがあるかとは思いますが、事務局いいですか。

○事務局課長補佐(小石隆之君) はい、野田委員さんから資金面のお話もございましたし、安田委員さんと足立委員さん貴重なご意見いただきまして、この営農計画書自体、詳細な部分に分かりにくいなどいろんなご意見をいただきまして、再度書士の方にこういった意見があったと、詳細な説明を求めたうえで、それを各委員さんに見ていただきながら、またご審議をしていただくということが今の段階です。

○議長(野村茂君) はい、他にご意見ございませんか。この7番の件について。

(挙手あり)

○議長(野村茂君) はい。

○5番(野田卓志君) 新規就農者を増やそうというのが、国をあげての策だと思いますし、そういう方が本気で農業をやろうと思われているときに、お前の職業はこうだから怪しいからダメだという理由で突き返されるというのはあってはならないことだと思うので、怪しいところは怪しいで徹底的に説明してもら必要はあると思うんですけど、それを前面に押し出してというか、理由にして突っぱねるというのは非常にまずいことだと思いますので、新規に就農する方は大歓迎なんですけど、5反の営農をする場合には、しっかりした営農計画書を出してもらわなくては困るというような判断がないと、個別で職業がこうだからダメとか言ったことでは今後まかり通っていかなくなると思うので、その辺の決まり事を決めて、個人の現況で判断するような言い回しをしないということが必要だと思うので、その辺の取り扱いだけ気を付けていただきたいと思います。

○事務局課長補佐(小石隆之君) 任意で出していただいて、もっと詳細に出していただく書士もいらっしゃいますので、項目については事務局内で相談しがてら委員さんが審査できるレベルの営農計画書を提出してもらえるように考えさせていただきます。

(挙手あり)

○議長(野村茂君) はい、山田彰委員さん。

○3番(山田彰君) 今、野田委員さんが言われたとおり、新規就農ということで本当にやられるのであれば支援していかなあかんと思うんですね。ただ、先ほどの年齢や職業を考えると、だいたい僕と同じような年齢なんです。その方が、本当に就農できるのかという疑問があるんやね。それと、就農については他の方が支援する件もあるんでしょ。そうゆうところとの打ち合わせとかゆうのはあるのかなと思うんですけど。

○事務局課長補佐(小石隆之君) うちの農政の方に当事者が新規就農するために何か施策がある

のかとか、そういった話は来てないと思いますが。私の認識不足かもしれませんが、農政とは連絡を取り合ってるのですが、関でやりたいのでいい支援策はないかという相談が来ているという話は聞いておりません。

○3番（山田彰君）本当にやられるのであれば、行政もいろんな面でバックアップしていかなあかんと思うんですけど、どうも年齢から営農計画書では本当に就農されるのかなという疑問が残るんやね。本当にやられるのであれば許可しなあかんのですけど、いろんな疑問が年齢とか職業とか、この場所とか。そういうことを含めてよくもっと計画書の詳細を聞いて。これだけでは良いよとは言いがたい。本当にやられるということを確認したい。

○議長（野村茂君）はい、それでは他にご意見ございませんか。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ございませんようですので、みなさんのご意見をまとめます。まず、新規就農をしたいという目的で取得をしたいということではありますが、下限面積の関係で出てくる部分もありますが、この申請で出てる農地の中でため池に木が生えていおり、農地として営農ができない状況であるということと、事務局にもう一度現地を確認していただいて、先ほどから心配されております新規就農で本当に営農をされるのかどうかという疑問がありますので、そこを申請人に確認をしていただくということで、改めて審議をさせていただくということでどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

○議長（野村茂君）それでは、第1号議案7番については、8番にも関係してきますが、改めて農業経営計画内容また現地に疑問があるということで再度確認していただいて、次回にご審議をしていただきたいと思いますと思いますが、異議ございませんか。

（異議なしの声あり）

○議長（野村茂君）それでは、第1号議案7番、8番については再度内容を事務局で確認していただいて、次回にご審議していただくこととします。

それでは、7番、8番の案件以外についてご意見があればご発言いただきたいですが、よろしいでしょうか。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）無いようですので、補足説明のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）それでは、第1号議案他の件ですが、質疑のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）それでは採決をしたいと思います。議案第1号の1番、2番、3番、4番、6番の案件について原案のとおり許可することに異議にない方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございました。全員の挙手をいただきました。議案第1号の1番から4番と6番の5件を許可することといたします。

続きまして、議案第2号 農地法第4条の規定による許可申請に対する意見についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。議案第2号 農地法第4条第1項の規定による許可申請に対する意見について。農地法第4条の規定により下記農地の申請があったので、意見を求めます。議案は5ページからになります。

1番の案件 位置図は、9ページになります。申請地は、東田原公民館の南東230mほどに位置する登記地目畑、現況地目宅地、182㎡。農地の区分は、10ha以上の集団農地であるため、第1種農地と判断します。転用の目的は、住宅への進入路、倉庫です。申請人は、母屋への進入路と倉庫を建築して利用したいというもの。6月11日に現地確認をしたところ、昭和10年に宅地となっているため、始末書が添付されています。申請地は、第1種農地であるため、原則、不許可ではございますが、集落に接続していることから、農地転用の制限の例外基準をみたくものと考えます。

2番の案件 位置図は、10ページになります。申請地は、片倉グラウンドの東380mほどに位置する登記地目田、現況地目雑種地2筆、519㎡。農地の区分は、用途地域の農地であるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、貸駐車場、貸資材置場です。申請人は、相続により申請地を取得したが、農機具販売事業者に資材置場、駐車場として貸したいというものです。6月11日に現地確認をしたところ、昭和50年から雑種地として利用しております。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないと判断します。

3番の案件 位置図は、11ページになります。申請地は、関市役所西部支所の北360mほどに位置する登記地目畑、現況地目宅地、820㎡の内222㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。申請人は、隣地と一体利用して離れが立っているため、今回農地法に適合するよう申請をしたということです。6月11日に現地確認をしたところ、昭和63年から宅地として利用しており、始末書が添付されています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。以上、3件について、ご審議をお願いします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。議案第2号について補足説明のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ございませんようですので、議案第2号について質疑のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので採決します。議案第2号について原案のとおり岐阜県知事に進達することに異議のない方は挙手をお願いします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございます。全員の挙手をいただきました。議案第2号の3件を原案のとおり岐阜県知事に進達することとします。

続きまして、議案第3号 農地法第5号第1項の規定による許可申請に対する意見についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）議案第3号 農地法第5条第1項の規定による許可申請に対する意見について。農地法第5条の規定により下記農地の申請がありましたので意見を求めます。議案は、6ページからになります。

1番の案件 位置図は、12ページになります。申請地は、富岡小学校の西220mほど位置する登記地目田、現況地目雑種地、366㎡、換地後の面積284㎡。農地の区分は、用途地域の農地であるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。使用借人は、現在アパート住まいである子や義理の親と生活するための一般個人住宅を建築するというもの。使用貸人は、住宅を建築するための土地を貸すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、雑種地となっています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないと判断します。

2番の案件 位置図は、13ページになります。申請地は、長良川鉄道関口駅の西200mほどに位置する登記地目畑、現況地目雑種地、476㎡、登記地目畑、現況地目宅地、49㎡、合計2筆、525㎡。農地の区分は、用途地域の農地であるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、宅地分譲です。譲受人は、申請地は交通の便もよく、教育機関も近くにあるなど宅地分譲するには最適な土地であることから、転用したいというもの。譲渡人は、周辺が宅地化してきたことから、農地の維持管理が難しいため、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、昭和36年に雑種地又は宅地となっており、始末書が添付されています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないと判断します。

3番の案件 位置図は、14ページになります。申請地は、関高等学校の東380mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、1,058㎡の内938.08㎡。農地の区分は、用途地域の農地であるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、宅地分譲です。譲受人は、周辺の状況から、宅地分譲地としては最適であると考え、転用したいというもの。譲渡人は、体調に不安があり農地として、維持管理ができないことから、譲り渡すというものです。6月11日に現地確認をしたと

ころ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないと判断します。

4番の案件 議案は7ページ、位置図は、15ページになります。申請地は、西田原公民館の北290mほどに位置する田、687㎡。農地の区分は、10ha以上の集団農地であるため第1種農地と判断します。転用の目的は、プラスチック製品製造業駐車場です。譲受人は、近接地で事業を営んでいるが、現在利用している駐車場の一部を大型車の回転場と利用していることや、業務拡張による社員の増員により、駐車場が不足することもあり、申請地を駐車場としたいというもの。譲渡人は、譲受人の経営規模安定に寄与したいというものです。6月11日に現地確認をしたところ、田で農地性有りを確認しています。申請地は、第1種農地であるため、原則不許可であります。既存施設の2分1以内の拡張であるため、農地転用の制限の例外基準を満たすものと考えます。

5番の案件 位置図は、16ページになります。申請地は、下日立公会堂の西590mほどに位置する登記地目田、現況地目雑種地、4筆、2,211.26㎡。農地の区分は、農業振興地域内の農地と中山間地域等の未整備農地であるため、第2種農地と判断します。転用の目的は、農地の嵩上げ、一時転用です。一時転用期間は3年です。賃借人は、公共工事の建設発生土を利用して、農地の嵩上げをするというもの。賃借人は、要請を受け一時的に貸すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、既に雑種地であり、始末書の提出を依頼しています。申請地は、農振農用地が含まれており、原則不許可であります。一時転用し、農地を復元することから、農地転用の制限の例外基準を満たすものと考えます。

6番の案件 議案は8ページ、位置図は、17ページになります。申請地は、片倉グラウンドの西30mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、2筆、1,135㎡。農地の区分は、用途地域にある農地のため、第3種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。譲受人は、現在、家族が別れて住んでいることもあり、申請地に住宅を建て一緒に暮らすというもの。譲渡人は、農業経営の跡継ぎもいないため、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日現地確認をしたところ、畑で農地性ありを確認をしています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないものと判断します。

7番の案件 位置図は、18ページになります。申請地は、今宮公民センターの南西280mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、834㎡。農地の区分は、10ha以上の集団農地であるため、第1種農地と判断します。転用の目的は、分譲住宅です。譲受人は、申請地が交通の利便が良く、宅地として需要が見込まれるため、申請地を分譲住宅として利用したいというもの。譲渡人は、周辺が宅地化されてきたことから、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第1種農地であるため、原則、不許可ではございますが、集落に接続していることから、農地転用の制限の例外基準をみたすものと考えます。

8番の案件 位置図は、19ページになります。申請地は、長良川鉄道関下有知駅の南西430mほどに位置する田、524㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。使用借人は、現在アパート住まいであるが、家族も増えることから申請地を借り受け、自己住宅を建築するというもの。使用借人は、使用借人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、田で農地性有りを確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。

9番の案件 議案は9ページ、位置図は、20ページになります。申請地は、瀬尻小学校の東330mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、218㎡。農地の区分は、水道管、下水道管が整備された道路の沿道で申請地から概ね500m以内に2つの教育施設があるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、社会福祉及び障がい福祉施設サービス等事業施設です。譲受人は、施設を拡張したいと考え、申請地を譲り受けたいというもの。譲渡人は、多忙であり、農地を管理ができない事から譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないものと判断します。

10 番の案件 位置図は、21 ページになります。申請地は、小瀬グラウンドの東300mほどに位置する畑、570㎡の内111.6㎡。農地の区分は、10ha以上の集団農地であるため、第1種農地と判断します。転用の目的は、食品製造業駐車場です。賃借人は、業務拡張に伴い、従業員が増え駐車場不足となったため、申請地を駐車場として利用したいというもの。賃貸人は、現在栗畑として利用しているが、要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第1種農地であるため、原則不許可ではございますが、既存施設の2分の1以内の拡張のため、農地転用の制限の例外基準をみたくものと考えます。

11 番の案件 位置図は、22 ページになります。申請地は、東海環状自動車道関広見インターの北西590mほどに位置する田、676㎡。農地の区分は、10ha以上の集団農地であるため、第1種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。譲受人は、子の住宅を建築するための土地を購入したいというもの。譲渡人は、高齢で農地の維持管理ができないことから、譲り渡すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、田で農地性有りを確認しています。申請地は、第1種農地であるため、原則不許可ではございますが、集落に接続していることから農地転用の制限の例外基準をみたくものと考えます。

12 番の案件 議案は10 ページ、位置図は、23 ページになります。申請地は、関市役所西部支所の北330mほどに位置する畑、820㎡の内598㎡。農地の区分は、水管、下水道管が整備された道路の沿道で申請地から概ね500m以内に2つの医療機関があるため、第3種農地と判断します。転用の目的は、共同住宅です。使用借人は、アパート経営することで、収入の補填を図りたいというもの。使用貸人は、これまで耕作をしてきたが、今後継続していく事が困難であるため、母に土地を貸すというものです。5月13日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないものと判断します。

13 番の案件 位置図は、24 ページになります。申請地は、赤土坂公民センターの北東430mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、54㎡。農地の区分は、用途地域にある農地のため、第3種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅駐車場です。譲受人は、駐車場として申請地を利用したいというもの。譲渡人は、農業経営が難しいため、譲受人の要望に応えるというものです。隣地承諾書が添付されています。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないものと判断します。

14 番の案件 位置図は、25 ページになります。申請地は、下之保地区処理施設の北東830mほどに位置する畑、569㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、太陽光発電施設です。使用借人は、自宅の消費電力で賄いたいと考え、父の土地に太陽光発電施設を設置したいというもの。使用貸人は、高齢であり農地の維持管理ができないため、使用借人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りを確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。

15 番の案件 議案は11 ページ、位置図は、26 ページ、27 ページです。申請地は、下之保グラウンドの北1kmほどに位置する登記地目田、現況地目宅地、132㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅車庫です。譲受人は、申請地の北側の住宅に引っ越してきたが、譲渡人の所有する近隣の所有地を譲り受ける事になった。申請地は、平成3年に既に車庫として利用されており、農地法許可の申請をするということです。譲渡人は、高齢であり、相続をした農地を管理できないことから、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、既に宅地となっており、始末書が添付されています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。

16 番の案件 位置図は、26 ページ、27 ページになります。申請地は、下之保グラウンドの北1kmほどに位置する畑、231㎡。農地の区分は、中山間地域等の未整備農地であり、第2種農地と判断します。転用の目的は、植林です。申請地は、山林に接している農地で、収益があがる見込みがないことから植林として利用したいというものです。譲渡人は、高齢であり、相続をした農

地を管理できないことから、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りと確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

17番の案件 位置図は、26ページ、27ページになります。申請地は、下之保グラウンドの北1kmほどに位置する登記地目畑、現況地目宅地、99㎡。農地の区分は、中山間地域等の未整備望地であり、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅倉庫です。譲受人は、申請地の南側の住宅に引っ越してきたが、譲渡人の所有する近隣の所有地を譲り受ける事になった。申請地は、昭和46年に既に倉庫として利用されており、農地法許可の申請をするということ。譲渡人は高齢であり、相続をした農地を管理できないことから、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、既に雑種地となっており、始末書を添付するよう依頼中です。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

18番の案件 議案は12ページ、位置図は、28ページ、29ページになります。申請地は、下之保グラウンドの北1.2kmほどに位置する登記地目畑、現況地目宅地、2筆、合計366㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。譲受人は、申請地にある既存住宅を購入する予定であったが、農地法の許可をとっていなかったため、今回申請するもの。譲渡人は、営農が困難であることから、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、既に雑種地となっており、始末書を添付するよう依頼中です。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

19番の案件 位置図は、30ページになります。申請地は、武儀倉集会所の北東80mほどに位置する畑、5筆、773.76㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。譲受人は、現在の居住地での住宅の建て替えを考えたが、土砂災害警戒区域内の土地であるため別の土地を探していたところ、子の住む隣接地で自己住宅を建築したいというもの。譲渡人は、譲受人の要望に応えるというものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りと確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

20番の案件 議案は13ページ、位置図は、31ページになります。申請地は、飛瀬集会所の東隣りに位置する畑、500㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、一般個人住宅です。譲受人は、現在アパート住まいであり、手狭になったため、一般個人住宅を建築するというものです。譲渡人は遠方で耕作できないため、譲り渡すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、平成元年から既に雑種地となっており、始末書が添付されています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

21番の案件 位置図は、32ページになります。申請地は、飛瀬集会所の南東10mに位置する畑、373㎡の内81㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、上下水道管敷設工事の一時転用です。一時転用期間は、令和3年10月31日までです。使用借人は、隣接地で住宅を建築する予定であるが、上下水道管が近くにないため、申請地の地下を通して建築予定の一般個人住宅を建築したいというものです。使用貸人は、要望により一時的に貸すものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑で農地性有りと確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむ得ないものと判断します。

22番の案件 位置図は、33ページになります。申請地は、博愛小学校の西80mほどに位置する田、2筆、362㎡。農地の区分は、街区に占める宅地割合が40%を占めるため、第3種農地

と判断します。転用の目的は、太陽光発電施設です。譲受人は、太陽光発電事業者であり、売電事業を行うというもの。譲渡人は、高齢により耕作が困難であることから、譲り渡すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、田で農地性有りを確認しています。申請地は、第3種農地であるため、転用はやむを得ないものと判断します。

23番の案件 議案は14ページ、位置図は、34ページになります。申請地は、博愛小学校の南80mほどに位置する田、531㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、太陽光発電施設です。譲受人は、太陽光発電事業者であり、売電事業を行うというもの。譲渡人は、高齢により耕作が困難であることから、譲渡すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、田で農地性有りを確認しています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。

24番の案件 位置図は、35ページになります。申請地は、宇多院公民館の北130mほどに位置する登記地目田、現況地目畑一部宅地、401㎡。農地の区分は、住宅、事業施設等に連担する10ha未満の農地の区域内にある農地のため、第2種農地と判断します。転用の目的は、貸駐車場・貸資材置場です。譲受人は、近隣で建設業を営んでおり、資材や機械置場を確保したいと考え、申請地を利用したいというもの。譲渡人は、営農が困難であるため、譲り渡すというものです。6月11日に現地確認をしたところ、平成8年から既に一部宅地化しており、始末書が添付されています。申請地は、第2種農地であるため、代替性について検討した結果、他に事業の目的を達成することが出来る土地がないため、転用はやむを得ないものと判断します。以上、所有権移転に関するもの17件、使用貸借権設定に関するもの5件、賃貸借件設定に関するもの2件、合計24件につきましてご審議をお願いいたします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。議案第3号について、補足説明のある委員は挙手にて発言をお願いいたします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ございませんようですので、議案第3号について質疑のある委員は挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので、採決します。議案第3号について原案のとおり岐阜県知事に進達することに異義のない方は挙手をお願いします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございます。全員の挙手をいただきました。議案第3号の24件を原案のとおり岐阜県知事に進達することとします。

続きまして、議案第4号 事業計画変更申請に対する意見についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）議案第4号 事業計画変更申請に対する意見について。農地転用許可後の事業計画変更申請がありましたので、意見を求めます。議案は、15ページからになります。

1番の案件 位置図は、36ページになります。申請地は、側島公民館の西190mほどに位置する畑、399㎡。変更内容は、転用目的の変更です。当初事業計画者は、平成27年5月29日に空調機器整備業貸倉庫、貸駐車場、通路敷地として5条許可をとったが、倉庫に関しては景気の低迷により倉庫を建築する予定がなくなったため、目的として、倉庫予定地を貸駐車場、大型車の乗り入れ、旋回しやすいように通路として利用したいというものです。以上、1件について、ご審議をお願いします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。議案第4号について、補足説明のある委員は挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ございませんようですので、これより質疑を行います。議案第4号について質疑のある委員は挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので、これより採決します。議案第4号について原案のとおり岐阜県知事に進達することに異議のない方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございました。全員の挙手をいただきました。議案第4号の1件を原案のとおり岐阜県知事に進達することといたします。

次に、議案第5号農用地利用集積計画の承認についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。議案第5号 農用地利用集積計画の承認について。農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定により、農用地利用集積計画の承認を求められたので、意見を求めます。議案は、16ページから19ページになります。賃貸借権設定に関するものについて、新規が1筆、1,541㎡。更新が34筆、53,846㎡。使用貸借権設定に関するものについて、更新が14筆、10,869㎡です。地区は、武芸川町跡部、武芸川町平、武芸川町谷口、武芸川町小知野、武芸川町八幡、武芸川町宇多院、広見、洞戸大野の8地区です。権利の設定を受ける者は、有限会社むげがわ農産他でございます。農業経営基盤強化促進法第18条第3項の各要件を満たしていると考えます。以上、ご審議をお願いします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。議案第5号について、質疑を行います。議案第5号について質疑のある委員は挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので、採決します。議案第5号について原案のとおり承認することに異議のない方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございました。議案第5号の農用地利用集積計画の承認については原案のとおり承認することといたします。

続きまして、議案第6号農地の買受適格証明に対する意見についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。議案第6号 農地の買受適格証明に対する意見について。国税徴収法第95条第1項第7号に基づき、下記農地の買受適格証明願いがあったので、意見を求めます。議案は20ページになります。

1番の案件 位置図は、37ページになります。申請地は、東海環状自動車道関広見インターの北西590mほどに位置する登記地目田、現況地目畑、241㎡。申請人は、公売物件である土地を買い受け、一般個人住宅の物置、庭として利用したいというものです。令和3年8月10日から8月19日までの間に行われる公売に参加したいため、農地法第5条の適格証明書の交付を求めるものです。6月11日に現地確認をしたところ、畑であることを確認しています。申請者は、公売したい土地の南に住宅を建築する予定であることや、公売に参加するための資金面等でも問題がないため、買受適格者に該当する者と判断します。以上、買受適格証明に対する意見につきまして、ご審議をお願いいたします。

○議長（野村茂君）事務局の説明が終わりました。議案第6号について、補足説明のある委員さんは挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）ございませんようですので、質疑を行います。議案第6号について質疑のある委員は挙手にて発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）質疑もないようですので、採決します。議案第6号について原案のとおり岐阜県知事に進達することに異議のない方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

○議長（野村茂君）ありがとうございました。全員の挙手をいただきました。議案第6号については原案のとおり岐阜県知事に進達することといたします。

次に、報告1号 農地法第18条第6項の規定による届出についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。報告1号 農地法第18条第6項の規定による届出について。報告第1号 農地法第18条第6項の規定による届出について、賃貸借設定した土地の合意解約の届出がありましたので、報告させていただきます。議案は21ページになります。

1番の案件 届出地は、大杉地区の畑、1筆、417㎡。賃借人は、有限会社ふる里農園美の関です。合意解約成立日は、令和3年6月9日です。

2番の案件 届出地は、上白金地区の田、4筆、2,630㎡。賃借人は、農事組合法人上白金営農組合です。合意解約成立日は、令和3年6月9日です。以上、報告させていただきます。

○議長（野村茂君）はい。報告第1号につきましては、事務局の説明のとおりです。

本日ご審議をいただく案件はすべて終了いたしました。ありがとうございました。

（挙手あり）

○議長（野村茂君）はい、青山委員さん。

○12番（青山雅紀君）意見というか、検討願いたいということですが、先ほどの広見の案件で、下限面積5反ということが、いろいろ農地取得の面で影響している。新規就農の弊害になってはいかんといい、農地管理というのは果たして適格農家、5反以上の取得が良いのかどうか。昨今、耕作放棄地が非常に増えているという観点から、新規就農には支援が必要ではないかということで、特例制度についてこの間新聞にも出ておりました。県下ずっと見ておりましたが、旧関市は5反で、合併されました洞戸、板取、上之保が2反。武芸川、武儀が3反という下限面積がありますが、岐阜市を見ても4反。山県市、各務原市、美濃加茂市、美濃市を含めても関市だけが突出した5反というような状況でありますので、荒れ地を促進する意味ではございませんが、管理するという意味で、この5反を見直すというようなことができんかなと。新規就農をする方の支援をするという意味で、弊害になっている農地の取得面積を検討する時期じゃないかなと感じております。ただ、緩めていくことが果たして農地管理、それは審議の中で農業委員会がしっかりとした新規就農者かどうかを審議することによって促進されていくんじゃないかなと思いますので、一度ご検討していただきたいという提案をしたいということです。以上です。

○議長（野村茂君）はい、ありがとうございます。只今、青山委員さんからご発言がございました。下限面積、旧関市については5反ということでございますが、これについて見直しをしてはどうか。特に、新規就農者に目を向けた場合に見直しをしてはどうかというご意見をいただきました。このことにつきまして、何かご意見ございましたらご発言をお願いします。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）無いようですので、一度近隣の状況を見ていただいて事務局の方で検討をしていただくというのはどうでしょうか。よろしいでしょうか。ここでは即結論は出せませんでしょうが、5反についてご検討願いたいと思います。旧関市の5反についてはご意見いただきましたが、旧郡部についてのご意見はございませんでしょうか。

（挙手なし）

○議長（野村茂君）無いようですので、事務局で旧関市の5反について検討していただきたいと思います。では事務局をお願いします。

○事務局課長補佐（小石隆之君）はい。長時間にわたりご審議をありがとうございました。

午前11時36分 閉会

本日の議会の顛末を記録し、相違ないことを証するためここに署名する。

議長

_____ (印)

7番

_____ (印)

8番

_____ (印)